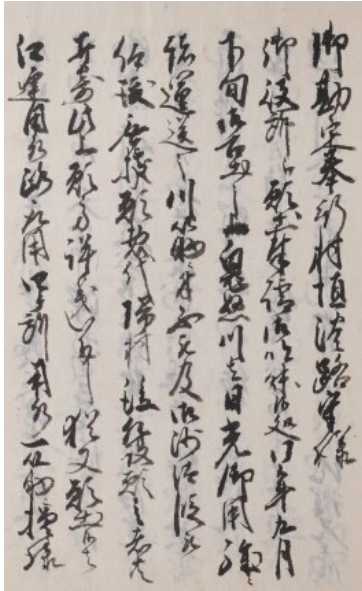


江戸時代の村から社会を考える

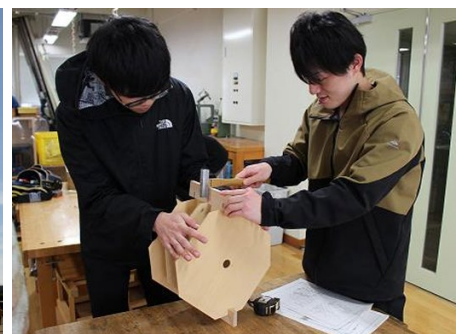
社会選修 教授 千葉真由美

近世の村人たちは
どのように意思を
示したのか？

江戸時代は多くの文書が作成されるようになり、村の百姓に至るまでが印（印章）を所持し、使用するようになった時代です。人々は自らの強い意思を示す手段として印を使用することもありました。このような社会の特質を知るために多種多様な古文書、くずし字を解読しています。江戸時代の村の史料は活字化されていないものも多くあります。まだ誰も読んでいない古文書を読み、社会のありかたを解明していくことは、村や村人の研究の醍醐味です。



検地実践プロジェクト進行中！



下記のテーマも扱っています

子育てと介護は女性の役割？
『論点・日本史学』（ミネルヴァ書房）に掲載



百姓はどのような衣服を着ていた？
『生産・流通・消費の近世史』（勉誠出版）に掲載

日本史の事象を題材に、数学科や技術科の知識を融合して江戸時代の検地を再現するプロジェクトを進めています。史料を解読・検討して、検地道具を製作、製作した道具を用いて検地を再現することで、これまで明らかにされてこなかった事実に向き合っていくものです。広い農地での検証やドローンによる撮影も行っています。また、歴史を体験的に学ぶ活動として、茨城県内の学校で検地の授業実践も始めています。